



参議院選挙結果に思う

7月末 労働組合の交流会で同じテーブルになった若い同僚が、「参議院選挙の結果でどうしてもわからないことがある。」と言いだした。「どうして福島で自民党が圧勝するのか？福島の人は何を考えているのか。」と言う。あれだけの被害を受け、汚染され、除染も満足にされていない状況で、何故 再稼動を急ぐ自民党に投票するのか？私は「財源の少ない県ではしかたがないので何とか恩恵を蒙りたいと思って票を投ずる気持ちで、自民党に投票するのだ。」と聞いたことがある。それでも彼女は納得がいけないと言う。私は、彼女の疑問を明らかにできればと思い、組合の副委員長を呼んできたが、彼は「避難している人が多く投票率も低かったためではないか」と言った。彼女は納得しないままその場は終わった。

後日 テアトル9の世話人会で同じテーマの話題が出た。ここではマスコミの力が大きく世論を動かすのだと結論に達した。彼女の思いが生かされる政治を担ってくれる政党を、彼女や多くの若者が見つけれられる様な、選挙報道であることを望む。(S.S.)

「やり残したもの」

～「屠殺場の聖ヨハンナ」の稽古場に思う～

1968年10月21日、第1回国際反戦デー、70年安保の闘いの中で行われた、この大集会は、76万の労働者がストライキに突入、全国各地の集會に456万人が参加、46都道府県560カ所で集會とデモが行われた。この学生の行進の中に私たちはいた、橋の上ですれ違う労働者の大群に「頑張れよ！」と声をかけられ、フランスデモを繰り返したあの時の興奮はいまでも忘れられない。芝居の世界に引き込まれていったのもその頃だった、プレヒト、オニール、チェーホフと戯曲を読みながら未来について世界について、未熟な議論も戦わせた。出来たての演劇部に入り、初めての学生演劇祭の出し物はアルブーゾフの『私のかわいそうなマラート』だった。芝居の中でマラートが叫ぶ「この世でつくられるもつとすばらしいものの一つだ！六つの橋は一人の人生の6頁だ」と、この台詞の影響を受けたかどうか定かではないが、「橋をつくる」仕事に関わり、この仕事はいまも続いている。

そして、そろそろ仕事から離れて、新しい生き方を捜さなければ、若き日にやり残していたもの？それは、もう一度芝居をやることだった。学生芝居では舞台に立つことはなかった、なにせ1回の公演だけで、それもプロンプターとして参加し、卒業してしまったのだから。あの時の、演劇祭が終わった夜の興奮は今でも忘れられない。

今回、ふとしたことから「劇団どろ」公演、プレヒト作『屠殺場の聖ヨハンナ』という芝居に端役として参加し、演ずることの難しさに、もがいている。舌がもつれるほどの早口で、壊れた脳みそは数行のセリフすら簡単には覚えきれない。何とか覚えた台詞も立稽古が始まると、生まれつきの度胸のなさか、口が開いているだけで、言葉が出ない。練習の度にうちひしがれ、冷や汗流しながらの暑い夏場の猛稽古。

もう一つのやり残したもの？70年以降、働く者は負け続け、分断され、貧富の格差はどんどん広がり、呻くことさえできぬ絶望感の中で、支配する側とされる側との決定的ともいえる戦いが始まった。本来、権力を持つ者達を抑制するはずの憲法が国民を拘束する道具に替えられようとしている。密かに忍び寄り復古の足音なのだ。私たちは70年代の闘いから、これ以上負け続けるわけには行かない。1929年の大恐慌のさなかに作られた『屠殺場の聖ヨハンナ』の中で労働者は叫ぶ！「だから俺たちはいうんだ、戦えと！この戦いには負けるだろう、それから、次の戦いにも負けるだろう。だが、あんた方は戦いということを学び、力づくでしか世の中は動かないもんだということを。しかも、あんた方自身の手でそれはやらなくちゃならないことが、わかるだろう。」と。2013.8.11 広沢

女優たちによる朗読『夏の雲は忘れない』 — ヒロシマ・ナガサキ1945年—

構成・制作「夏の会」演出 城田美樹

08年、18人の女優たちで立ち上げた「夏の会」。原爆の惨禍を語り継ぎ、13年で5年になります。7月29日、鳥取の市民会館での公演を観に行きました。地元の高校生の参加もあり、舞台に彩りを添えていました。朗読の内容も、被爆者たちの作品だけに止まらず、幅広い資料を駆使しての豊富な内容での朗読に成っていました。日頃、忘れがちになる原爆の事ですが、女優さんたちの熱意に、忘れてはいけないと、思いました。(小谷)



～芝居と平和②～

2006年6月例会 『紙屋町さくらホテル』

井上ひさし作・こまつ座 公演
平田 康

戦争を始め、遂行するのは国家。その対極にあるのが文化、特に演劇です。井上ひさしの芝居には、その国家に反逆し平和を大事にする台詞があふれています。特にこの『紙屋町さくらホテル』は、題材、ストーリー、登場人物のすべてが戦争と演劇の関係をはっきりと示してくれます。話の中心に広島原爆で命を奪われた丸山定夫・園井恵子らの移動演劇さくら隊の悲劇があります。丸山は、彼が戦後まで生き延びていたら新劇の歴史が変っただろうとまで言われた名優でした。戦後に大活躍した滝沢修も当時は俳優の芸鑑札が貰えず舞台に立てなかったのです。役者は「世の中に役に立つモノを何一つ作り出せない人間の屑だ」と罵る特高刑事の戸倉に対して、「俳優は百姓になる、漁師になる……お客さまの目の前にありとあらゆる人間を創り出してみせる、人間の屑にそんな神様のようなことができますか」と冷静に反論する丸山の言葉は、活動の場を奪われ、最後は殺されていった演劇人たちの、当時は口にできなかった思いの結晶です。

戦争に反対し、平和を守る活動を続ける日本の、そして世界の演劇人たちは、平和なくして演劇は存在できないという事実を、歴史を通じて身に沁みて承知しているのです。



お芝居大好き！九条の会～テアトル9 って何??

2004年、井上ひさし、大江健三郎等9名の著名人が日本国憲法九条を守る「九条の会」を結成。その呼びかけに応え、演劇鑑賞会の会員有志で2005年「お芝居大好き！九条の会～テアトル9」を作りました。

月1回世話人会を持ち、ニュースを発行しています。興味のある方は、一緒にしませんか？下記世話人までご連絡を！

例会場「テアトル9コーナー」にお立ち寄りください！

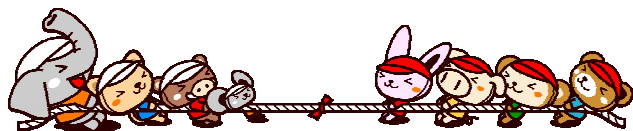
テアトル9グッズのプラバン、また賛同者の方にはニュースをご用意しています。

カンパも大歓迎！ ご連絡は下記まで

児玉 090-8209-2391

米田 090-8658-8579

谷中 090-2101-4579



9条の会世界会議に参加しませんか？

日時:10月14日(月・祝)

10時00分～16時30分

場所:大阪市中央体育館

参加費:一般1,000円

大学・専門学校生500円 高校生以下無料

【午前】ワークショップ 10:00～12:00

【午後】13:00～16:30

- ・ 海外・国内ゲストスピーチ ・ 若者アピール
- ・ 世界をつなぐ大合唱
- ・ ビデオレター(オリバー・ストーン監督 他)
- ・ 音楽・ダンス・エイサー 上条恒彦、がじゅまるの会 他

※「西神9条の会」のバスに乗せてもらうことになりました。

ホテル東急イン前(2号線沿い) 8時30分 出発

交通費 1,500円 弁当持参

※ 参加希望者は世話人に声をかけてください。



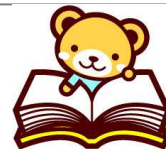
おすすめの本

CDブック群読「日本国憲法」

脚本・原案 毛利 豊

演出 堀口 始

出演 青年劇場の俳優たち 公文研発行



青年劇場の8人の俳優による“憲法”の朗読で日本国憲法の精髓をドラマのように伝える声で聴く本です。

新米弁護士のつぶやき vol.5

皆様、こんにちは。ご無沙汰しております。今回は、原発被災者損害賠償訴訟についてつぶやこうと思います。

一昨年3月11日に発生した福島第一原発事故により、多くの人が全国に避難をされました。兵庫県にも避難しておられます。何もかも諦め家族全員で避難されてきた方、お仕事を持つお父さんは福島に残り母子だけで避難されてきた方と、避難をされている方々の事情はそれぞれですが、皆さん口を揃えておっしゃるのは、あの事故さえなければ…、将来が見えない…ということです。

東京電力は、原発事故被災者に対しては、国が一方向的に設定した区域を基準に賠償を行っていますが、到底十分な補償とは言えません。そのような中、原発事故の責任を問い、十分な補償を求めるため、全国で原発事故被災者賠償請求訴訟が提起されています。兵庫県でも、この9月の末に、東京電力と国を相手方にした訴訟の提起を予定しています。決して簡単な訴訟ではありませんが、最後まで被災者の方達と肩を並べて取り組んでいきたいと思っています。よろしければ、報道を通して見守る、裁判を傍聴する等、どういった形でも構いませんので、温かいご支援のほどよろしくお願ひします。また、経過のご報告をしたいと思ひます。(知可)